

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

令和 5 年産 4 麦（子実用）（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の作付面積は29万5,700haで、前年産に比べ5,100ha（2％）増加した。

このうち、北海道は13万4,100ha、都府県は16万1,700haで、それぞれ前年産に比べ1,700ha（1％）、3,500ha（2％）増加した（表2－1、図2－1）。

イ 収穫量

令和 5 年産 4 麦（子実用）の収穫量は132万6,000tで、前年産に比べ9万9,000t（8％）増加した。

これは、小麦の10a 当たり収量が前年産を上回ったためである（表2－1、図2－1）。

図2－1 4 麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

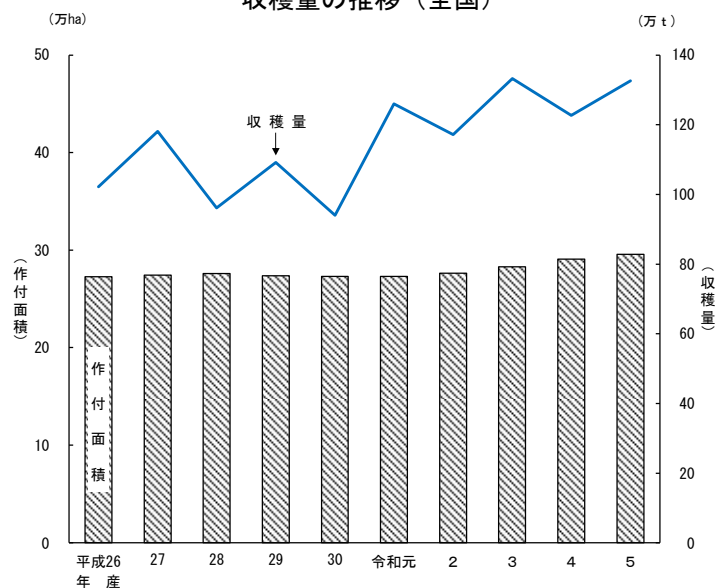


表 2－1 令和 5 年産 4 麦（子実用）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10a当 たり 平均収量 対 比	10a当 たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
4 麦 計	295,700	…	1,326,000	5,100	102	nc	99,000	108	nc	…	
小 麦	231,700	472	1,094,000	4,400	102	108	100,500	110	109	434	
二条大麦	38,900	389	151,300	800	102	98	100	100	109	356	
六条大麦	19,600	329	64,400	300	102	98	△ 700	99	108	304	
はだか麦	5,520	301	16,600 △	350	94	104	△ 400	98	104	290	
北 海 道											
4 麦 計	134,100	…	723,400	1,700	101	nc	102,500	117	nc	…	
小 麦	132,300	542	717,100	1,700	101	115	102,900	117	110	494	
二条大麦	1,710	357	6,110	10	101	94	△ 330	95	90	398	
六条大麦	14	440	62	1	108	114	12	124	126	349	
はだか麦	69	251	173 △	15	82	118	△ 6	97	93	271	
都 府 県											
4 麦 計	161,700	…	603,100	3,500	102	nc	△ 2,700	100	nc	…	
小 麦	99,500	379	376,900	2,800	103	97	△ 2,400	99	106	359	
二条大麦	37,200	390	145,200	800	102	98	500	100	110	355	
六条大麦	19,600	329	64,400	300	102	98	△ 600	99	108	304	
はだか麦	5,450	301	16,400 △	330	94	103	△ 400	98	103	291	

注：1 子実用とは、主に食用に供すること（子実生産）を目的とするものをいう。

2 「（参考）10 a 当たり平均収量対比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として前年産を起点とした過去 7 か年のうち、最高及び最低を除いた 5 か年の平均値をいう。ただし、過去 7 か年全ての 10 a 当たり収量が確保できない場合は、6 か年又は 5 か年の最高及び最低を除いた平均とし、4 か年又は 3 か年の場合は、単純平均である。）に対する当年産の 10 a 当たり収量の比率である。なお、過去 7 か年のうち、3 か年分の 10 a 当たり収量が確保できない場合は、作成していない（以下各統計表において同じ。）。

表 2－2 令和 5 年産 4 麦（子実用）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全農地	4 麦 計		小 麦					二 条 大 麦					六 条 大 麦					は だ か 麦				
	作 付 面 積	収 穫 量	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均 収 対 比	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均 収 対 比	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均 収 対 比	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均 収 対 比	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当たり 平均 収 対 比
	ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全 国	295,700	1,326,000	231,700	472	1,094,000	109	38,900	389	151,300	109	19,600	329	64,400	108	5,520	301	16,600	104				
北 海 道	134,100	723,400	132,300	542	717,100	110	1,710	357	6,110	90	14	440	62	126	69	251	173	93				
都 府 県	161,700	603,100	99,500	379	376,900	106	37,200	390	145,200	110	19,600	329	64,400	108	5,450	301	16,400	103				
東 北	8,410	23,400	6,730	257	17,300	101	52	292	152	138	1,630	362	5,900	109	-	-	-	nc				
北 陸	11,200	37,500	530	249	1,320	117	2	250	5	167	10,700	338	36,200	113	x	x	x	x				
関東・東山	38,300	139,000	21,400	362	77,500	101	12,000	390	46,800	108	4,590	296	13,600	98	x	282	x	94				
東 海	18,200	77,100	17,700	428	75,700	114	x	355	x	237	x	272	x	105	x	270	x	99				
近 畿	11,400	38,700	8,920	340	30,300	118	150	317	476	105	2,070	344	7,130	109	x	260	x	107				
中 国	6,990	24,500	3,130	348	10,900	106	3,190	370	11,800	105	x	242	x	122	575	254	1,460	107				
四 国	5,430	18,600	3,110	370	11,500	100	65	309	201	100	x	x	x	x	2,250	308	6,920	99				
九 州	61,600	244,300	37,900	402	152,400	105	21,700	395	85,700	114	48	219	105	111	1,920	317	6,090	109				
沖 縄	14	17	8	136	11	109	6	92	6	118	-	-	-	nc	-	-	-	nc				

注： 全国農業地域別（都府県を除く。）の 10 a 当たり平均収量は、各都府県の 10 a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた収穫量（平均収穫量）を全国農業地域別に積み上げ、当年産の全国農業地域別作付面積で除して算出している（以下各統計表において同じ。）。

(2) 解 説

ア 小麦（子実用）

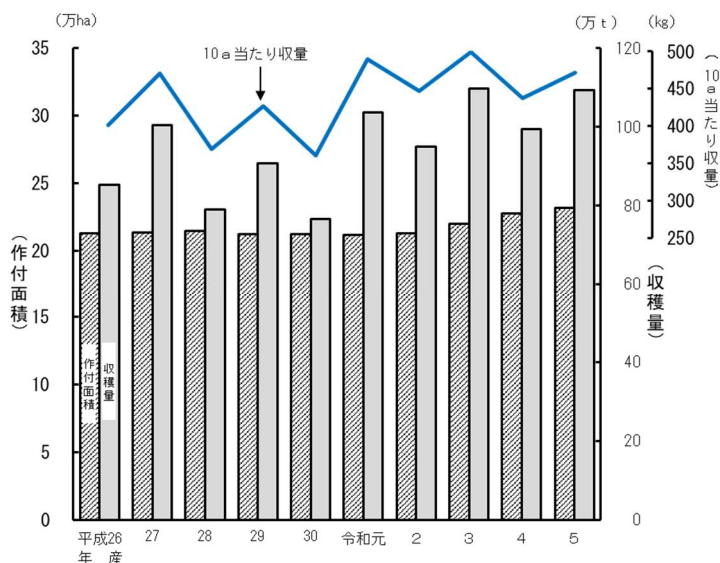
(ア) 作付面積

小麦の作付面積は23万1,700haで、前年産に比べ4,400ha（2％）増加した。

これは、他作物からの転換等があったためである。

このうち、北海道は13万2,300ha、都府県は9万9,500haで、それぞれ前年産に比べ1,700ha（1％）、2,800ha（3％）増加した（表2－1、2－2、図2－2）。

図2－2 小麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は472kgで、前年産を8％上回った。

これは、北海道において、天候に恵まれ、生育が順調で倒伏も少なく、登熟も良好であったためである。

このうち、北海道は542kgで、前年産を15％上回った。

また、都府県は379kgで、前年産を3％下回った。

なお、10a 当たり平均収量対比は109％となった（表2－1、2－2、図2－2）。

(ウ) 収穫量

収穫量は109万4,000tで、前年産に比べ10万500t（10％）増加した。

このうち、北海道は71万7,100tで、前年産に比べ10万2,900t（17％）増加した。

また、都府県は37万6,900tで、前年産に比べ2,400t（1％）減少した（表2－1、2－2、図2－2）。

イ 二条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万8,900haで、前年産に比べ800ha（2％）増加した。

これは、九州、中国を中心に他作物からの転換等があったためである。

このうち、北海道は1,710haで、前年産に比べ10ha（1％）増加した。

また、都府県は3万7,200haで、前年産に比べ800ha（2％）増加した（表2－1、2－2、図2－3）。

(イ) 10 a 当たり収量

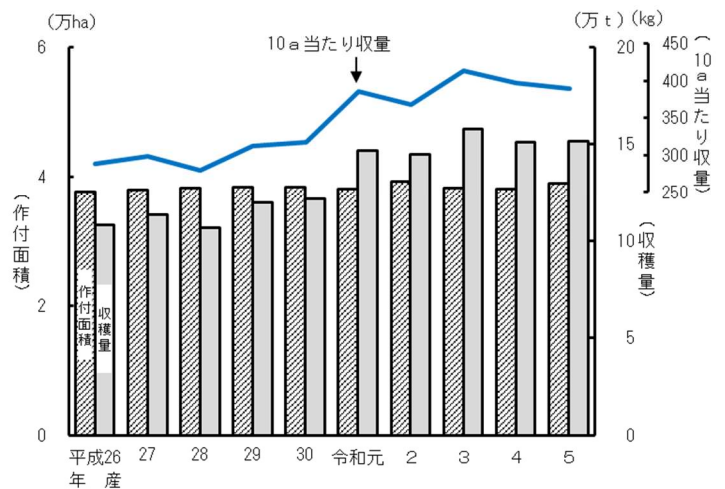
10 a 当たり収量は389kgで、前年産を2％下回った。

なお、10 a 当たり平均収量対比は109％となった（表2－1、2－2、図2－3）。

(ウ) 収穫量

収穫量は15万1,300tで、前年産並みとなった（表2－1、2－2、図2－3）。

図2－3 二条大麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万9,600haで、前年産に比べ300ha（2％）増加した。

これは、関東・東山などにおいて、他作物への転換等があったものの、北陸を中心に他作物からの転換等があったためである（表2－1、2－2、図2－4）。

(イ) 10 a 当たり収量

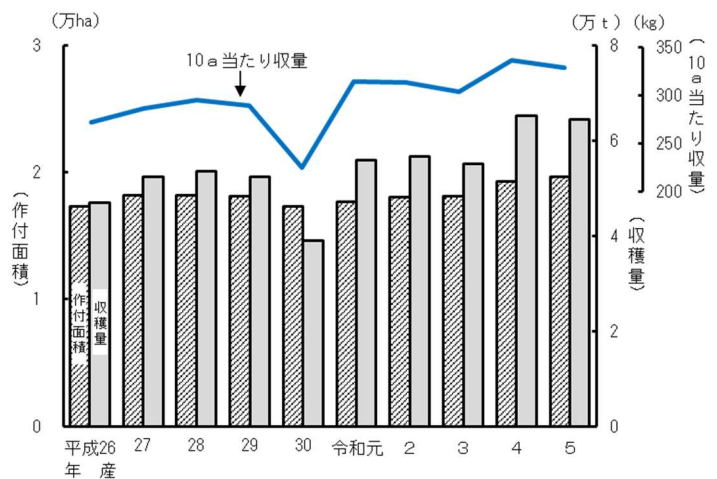
10 a 当たり収量は329kgで、前年産を2％下回った。

なお、10 a 当たり平均収量対比は108％となった（表2－1、2－2、図2－4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は6万4,400tで、前年産に比べ700 t（1％）減少した（表2－1、2－2、図2－4）。

図2－4 六条大麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10 a 当たり収量の推移（全国）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の作付面積は5,520haで、前年産に比べ350ha（6％）減少した。

これは、関東・東山や四国を中心に他作物への転換等があったためである（表2－1、2－2、図2－5）。

(イ) 10a当たり収量

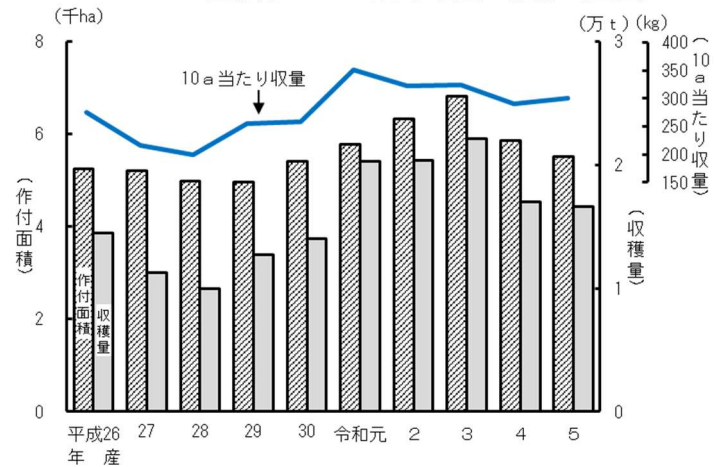
10a当たり収量は301kgで、前年産を4％上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は104％となった（表2－1、2－2、図2－5）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万6,600tで、前年産に比べ400t（2％）減少した（表2－1、2－2、図2－5）。

図2－5 はだか麦（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



3 豆類・そば

(1) 要 旨

令和5年産豆類（乾燥子実）の収穫量は、大豆が26万800 tで、前年産に比べ1万8,000 t（7％）増加した。小豆は3万900 tで、前年産に比べ1万1,200t（27％）減少した。いんげんは5,180 tで、前年産に比べ3,350 t（39％）減少した。らっかせいは1万5,700 tで、前年産に比べ1,800 t（10％）減少した。

また、そば（乾燥子実）の収穫量は3万5,600 tで、前年産に比べ4,400 t（11％）減少した（表3）。

表3 令和5年産豆類（乾燥子実）及びそば（乾燥子実）の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
大 豆	154,700	169	260,800	3,100	102	106	18,000	107	106	159	
小 豆	24,800	125	30,900	1,600	107	69 △	11,200	73	65	193	
うち北海道	20,900	139	29,100	1,800	109	67 △	10,200	74	63	220	
い ん げ ん	5,870	88	5,180	△ 350	94	64 △	3,350	61	69	127	
うち北海道	5,450	90	4,910	△ 330	94	64 △	3,180	61	69	130	
ら っ か せ い	5,710	275	15,700	△ 160	97	92 △	1,800	90	117	236	
うち千葉	4,680	287	13,400	△ 110	98	92 △	1,500	90	119	242	
そ ば	67,100	53	35,600	1,500	102	87 △	4,400	89	91	58	

注：小豆、いんげん及びらっかせいの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。主産県とは、直近の全国調査年における全国の作付面積のおおむね8割を占めるまでの上位都道府県をいう（以下表5－3まで同じ。）。令和5年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに主産県を対象に調査を実施した。なお、全国の作付面積及び収穫量については、主産県の調査結果から推計したものである。

(2) 解 説

ア 大豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

大豆の作付面積は15万4,700haで、前年産に比べ3,100ha（2%）増加した（表3、図3-1）。

これは、他作物からの転換等があったためである。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は169kgで、前年産を6%上回った。

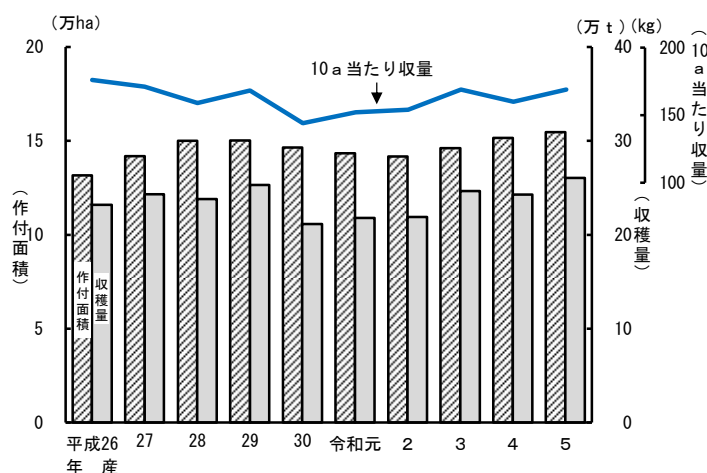
これは、北海道及び九州において、生育期間がおおむね天候に恵まれ、着さや数が多かったためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は106%となった（表3、図3-1）。

(ウ) 収穫量

収穫量は26万800tで、前年産に比べ1万8,000t（7%）増加した（表3、図3-1）。

図3-1 大豆（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



イ 小豆（乾燥子実）

(ア) 作付面積

小豆の作付面積は2万4,800haで、前年産に比べ1,600ha（7%）増加した（表3、図3-2）。

これは、主産地である北海道において、他作物からの転換等があったためである。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は125kgで、前年産を31%下回った。

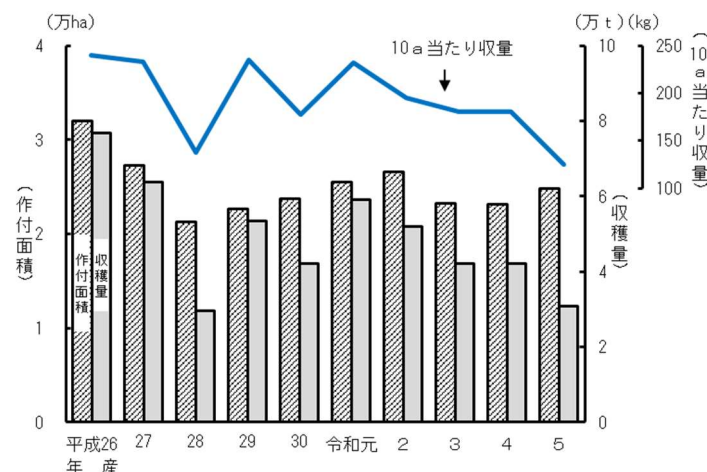
これは、主産地である北海道において、生育初期から高温で経過したことで、着さや数が平年に比べ多かった一方、小粒傾向となったことに加え、登熟から収穫期にかけ降雨が多かったこと等で品質も低下したためである。

なお、10a 当たり平均収量対比は65%となった。（表3、図3-2）。

(ウ) 収穫量

収穫量は3万900tで、前年産に比べ1万1,200t（27%）減少した（表3、図3-2）。

図3-2 小豆（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a 当たり収量の推移（全国）



ウ いんげん（乾燥子実）

(ア) 作付面積

いんげんの作付面積は5,870haで、前年産に比べ350ha（6％）減少した。

これは、主産地である北海道において、他作物への転換等があったためである（表3、図3-3）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は88kgで、前年産を36％下回った。

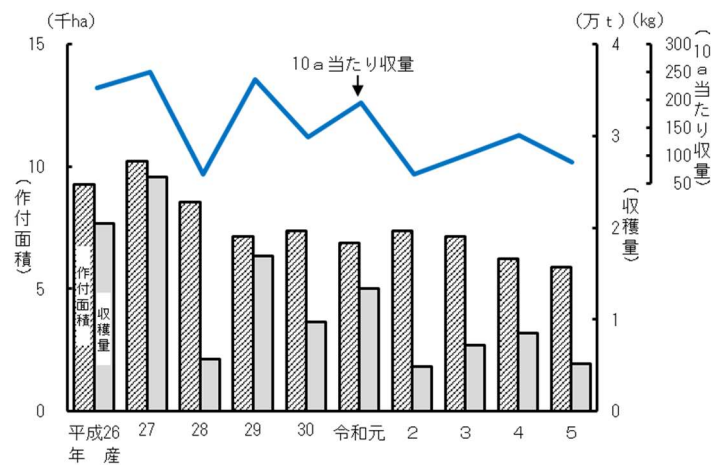
これは、主産地である北海道において、生育初期から開花期まで高温傾向で経過し生育はおおむね順調となり、着さや数が多く子実重は平年を上回ったものの、登熟期からの高温及び断続的な降雨等により品質が低下したためである。

なお、10a当たり平均収量対比は69％となった（表3、図3-3）。

(ウ) 収穫量

収穫量は5,180tで、前年産に比べ3,350t（39％）減少した（表3、図3-3）。

図3-3 いんげん（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



エ らっかせい（乾燥子実）

(ア) 作付面積

らっかせいの作付面積は5,710haで、前年産に比べ160ha（3％）減少した（表3、図3-4）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は275kgで、前年産を8％下回った。

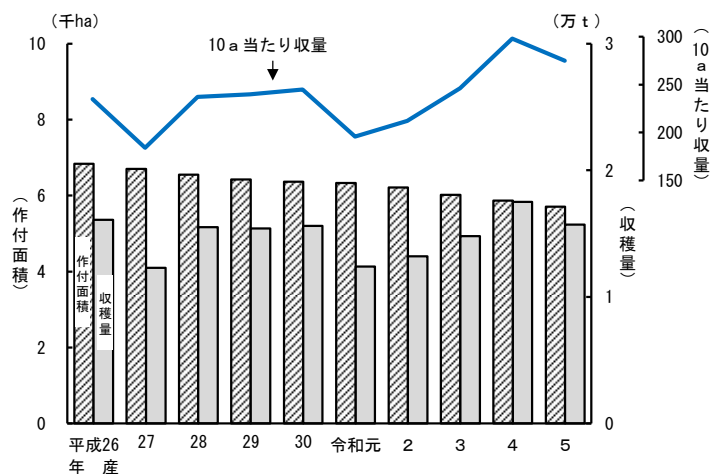
これは、主産地である千葉県において、おおむね天候に恵まれたものの、7月中旬以降の降雨が過少に経過したことで水分不足となり、空さやの発生や子実の充実不足が見られたことから、子実の充実が良好であった前年産に比べ、10a当たり収量は下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は117％となった（表3、図3-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万5,700tで、前年産に比べ1,800t（10％）減少した（表3、図3-4）。

図3-4 らっかせい（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



オ そば（乾燥子実）

（ア） 作付面積

そばの作付面積は6万7,100haで、前年産に比べ1,500ha（2%）増加した（表3、図3-5）。

（イ） 10a当たり収量

10a当たり収量は53kgで、前年産を13%下回った。

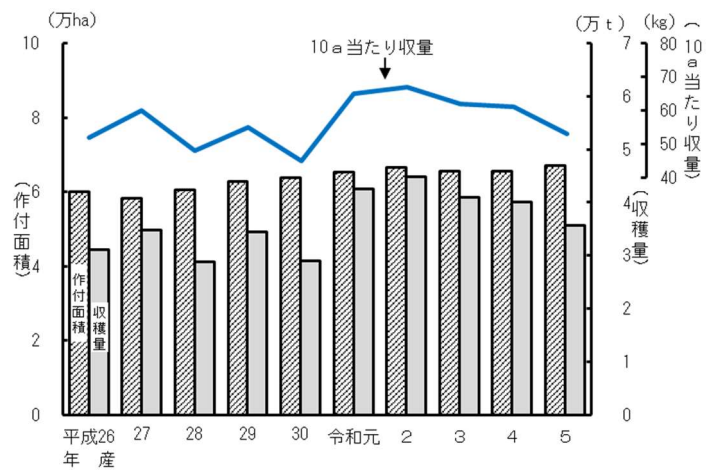
これは、北海道等において、夏場の高温の影響等から前年産を下回ったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は91%となった（表3、図3-5）。

（ウ） 収穫量

収穫量は3万5,600tで、前年産に比べ4,400t（11%）減少した（表3、図3-5）。

図3-5 そば（乾燥子実）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）



4 かんしょ

(1) 作付面積

かんしょの作付面積は3万2,000haで、前年産に比べ300ha（1％）減少した（表4、図4）。

(2) 10a当たり収量

10a当たり収量は2,240kgで、前年産を2％上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は102％となった（表4、図4）。

(3) 収穫量

収穫量は71万5,800tで、前年産に比べ5,100t（1％）増加した（表4、図4）。

図4 かんしょの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

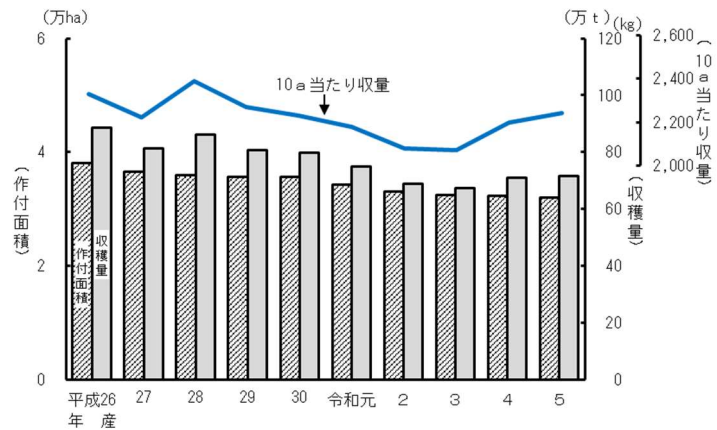


表4 令和5年産かんしょの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当たり 収 量	収 穫 量		10 a 当たり 平均収量 対 比	10 a 当たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全 国	32,000	2,240	715,800	△ 300	99	102	5,100	101		102	2,190
うち 茨 城	7,730	2,590	200,200	230	103	100	5,900	103		100	2,580
千 葉	3,540	2,580	91,300	△ 70	98	105	2,500	103		108	2,390
徳 島	1,080	2,510	27,100	△ 10	99	101	100	100		100	2,520
熊 本	822	2,240	18,400	7	101	96	△ 600	97		100	2,240
宮 崎	3,010	2,290	68,900	△ 70	98	91	△ 9,000	88		94	2,440
鹿 児 島	9,790	2,200	215,400	△ 210	98	105	5,400	103		100	2,210

注：かんしょの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに全国調査を実施した。

5 飼料作物

(1) 牧草

ア 作付（栽培）面積

牧草の作付（栽培）面積は70万5,200haで、前年産に比べ6,200ha（1％）減少した（表5－1、図5－1）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は3,400kgで、前年産を3％下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は100％となった（表5－1、図5－1）。

ウ 収穫量

収穫量は2,397万2,000tで、前年産に比べ109万1,000t（4％）減少した（表5－1、図5－1）。

図5－1 牧草の作付（栽培）面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

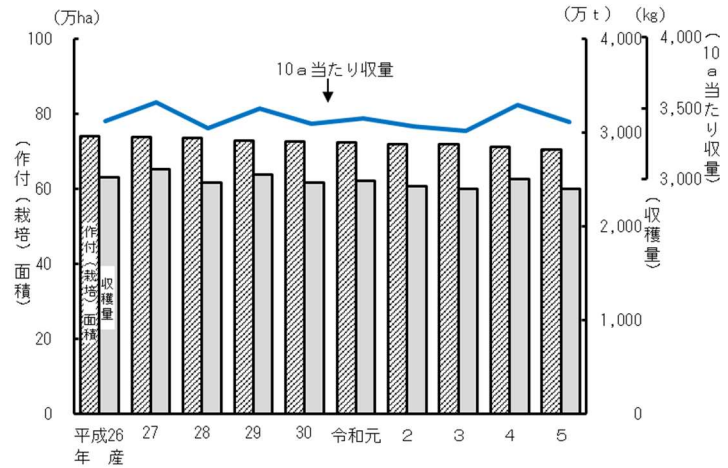


表5－1 令和5年産牧草の作付（栽培）面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付(栽培)面積	10 a 当たり収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 (栽 培) 面 積		10 a 当たり収 量	収 穫 量		10 a 当たり平均収量対 比	10 a 当たり平均収量	
				対 差	対比	対比	対 差	対比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
	705,200	3,400	23,972,000	△ 6,200	99	97	△ 1,091,000	96	100	3,410	
うち北海道	522,300	3,250	16,975,000	△ 2,900	99	97	△ 619,000	96	100	3,240	

注： 牧草の作付（栽培）面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付（栽培）面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については、作付（栽培）面積調査及び収穫量調査ともに全国調査を実施した。

(2) 青刈りとうもろこし

ア 作付面積

青刈りとうもろこしの作付面積は9万7,200haで、前年産に比べ900ha（1％）増加した（表5－2、図5－2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,080kgで、前年産並みとなった。

なお、10a当たり平均収量対比は102％となった（表5－2、図5－2）。

ウ 収穫量

収穫量は494万tで、前年産に比べ6万t（1％）増加した（表5－2、図5－2）。

図5－2 青刈りとうもろこしの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

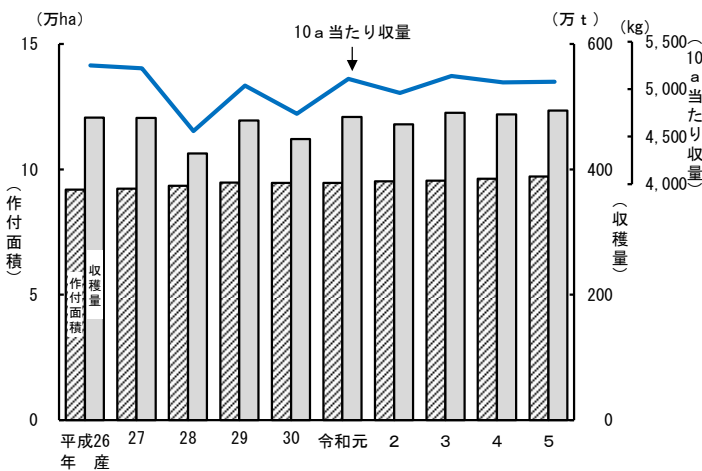


表5－2 令和5年産青刈りとうもろこしの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平 均 収 量 対	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg
	97,200	5,080	4,940,000	900	101	100	60,000	101	102	4,980
う ち 北 海 道	60,400	5,490	3,316,000	1,400	102	104	189,000	106	104	5,300

注： 青刈りとうもろこしの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに全国調査を実施した。

(3) ソルゴー

ア 作付面積

ソルゴーの作付面積は1万1,700haで、前年産に比べ300ha（2％）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表5－3、図5－3）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は4,250kgで、前年産を2％上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は99％となった（表5－3、図5－3）。

ウ 収穫量

収穫量は49万7,200tで、前年産に比べ3,500t（1％）減少した（表5－3、図5－3）。

図5－3 ソルゴーの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

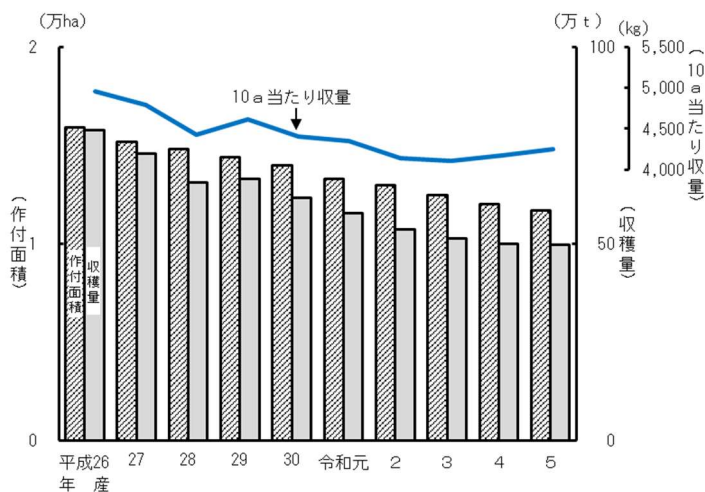


表5－3 令和5年産ソルゴーの作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量			10 a 当 たり 平 均 収 量 対 比	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
全 国	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
	11,700	4,250	497,200	△ 300	98	102	△ 3,500	99		99	4,300

注： ソルゴーの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については、作付面積調査及び収穫量調査ともに全国調査を実施した。

6 工芸農作物

(1) 茶

ア 栽培面積

全国の茶の栽培面積は3万6,000haで、前年に比べ900ha（2％）減少した（表6－1）。

イ 摘採実面積

主産県の摘採実面積は2万7,200haで、前年産に比べ600ha（2％）減少した（表6－2）。

ウ 生葉収穫量

主産県の生葉収穫量は32万tで、前年産に比べ1万1,100t（3％）減少した（表6－2）。

エ 荒茶生産量

主産県の荒茶生産量は6万8,000tで、前年産に比べ1,900t（3％）減少した。
府県別にみると、静岡県が2万7,200t（主産県計に占める割合は40％）、次いで鹿児島県が2万6,100t（同38％）、三重県が5,220t（同8％）となっている（表6－2、図6－1）。

表6－1 茶の栽培面積（全国）

単位：ha

区 分	栽 培 面 積
令和4年	36,900
5	36,000
対前年比（％）	98

注：茶の栽培面積については、令和4年調査及び5年調査は主産県調査であり、全国値は主産県の調査結果から推計したものである。

図6－1 茶の府県別荒茶生産量及び割合（主産県）

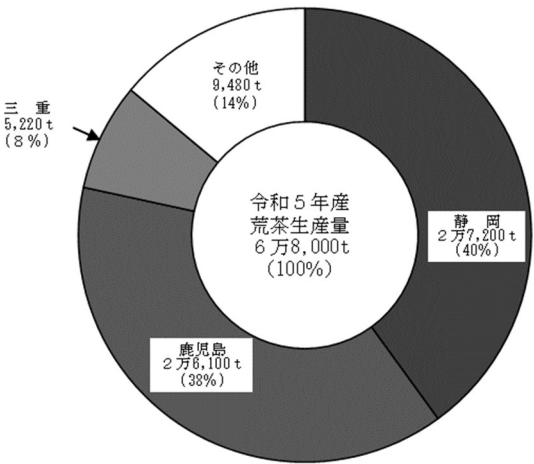


表6－2 令和5年産茶の摘採面積、10a当たり生葉収量、生葉収穫量及び荒茶生産量（主産県）

区 分	摘 採 面 積		10 a 当 たり 生 葉 収 量		生 葉 収 穫 量		荒 茶 生 産 量	
	実 面 積	延 べ 面 積	一 番 茶		一 番 茶		一 番 茶	
	ha	ha	kg	kg	t	t	t	t
主産県計 令和4年産	27,800	71,200	1,190	465	331,100	129,200	69,900	25,200
5	27,200	69,400	1,180	440	320,000	119,300	68,000	23,500
対前年産比（％）	98	97	99	95	97	92	97	93

注：茶の収穫量調査は主産県調査であり、6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については主産県を対象に調査を実施した。なお、主産県は、埼玉県、静岡県、三重県、京都府、福岡県、熊本県、宮崎県及び鹿児島県の8府県である。

(2) なたね（子実用）

ア 作付面積

なたねの作付面積は1,740haで、前年産並みとなった（表6－3、図6－2）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は211kgで、前年産並みとなった。

なお、10a当たり平均収量対比は108%となった（表6－3、図6－2）。

ウ 収穫量

収穫量は3,680tで、前年産並みとなった（表6－3、図6－2）。

図6－2 なたね（子実用）の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

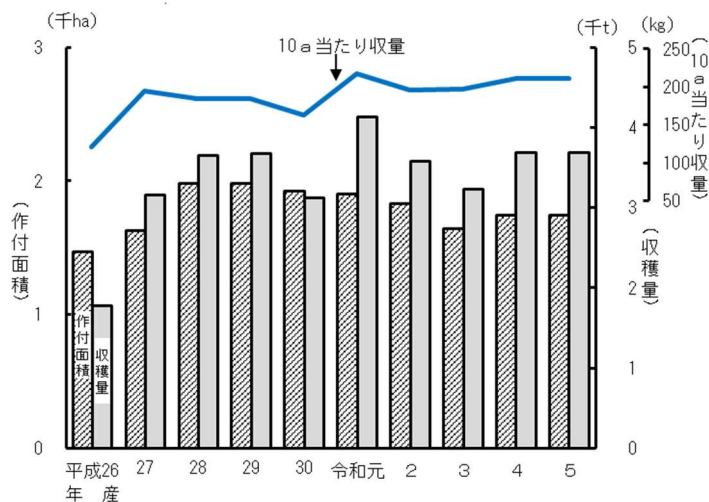


表6－3 令和5年産なたね（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量			10 a 当 たり 平 均 収 量 対	10 a 当 たり 平 均 収 量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
全 国	1,740	211	3,680	0	100	100	0	100		108	195

(3) てんさい（北海道）

ア 作付面積

てんさいの作付面積は5万1,200haで、前年産に比べ4,200ha（8%）減少した（表6－4、図6－3）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は6,650kgで、前年産を4%上回った。これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調であったためである。

なお、10a当たり平均収量対比は100%となった（表6－4、図6－3）。

ウ 収穫量

収穫量は340万3,000tで、前年産に比べ14万2,000t（4%）減少した（表6－4、図6－3）。

図6－3 てんさいの作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（北海道）

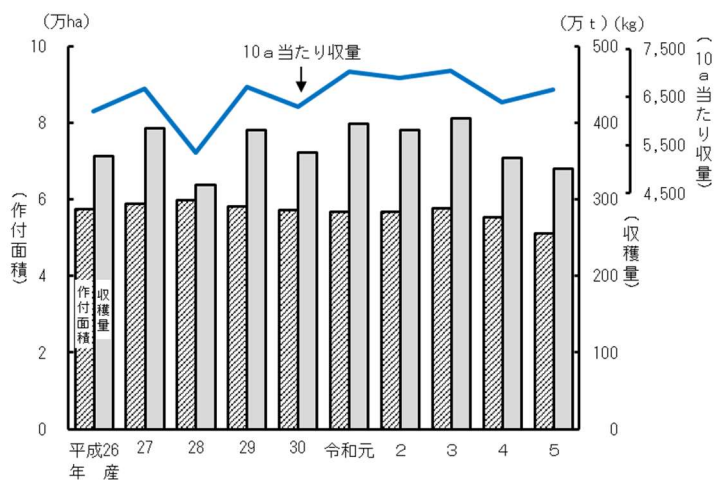


表6－4 令和5年産てんさいの作付面積、10a当たり収量及び収穫量（北海道）

区 分	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)	
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量			10 a 当 たり 平均収量 対 比	10 a 当 たり 平均収量
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比			
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%		%	kg
北 海 道	51,200	6,650	3,403,000	△ 4,200	92	104	△ 142,000	96		100	6,660

注：てんさいの作付面積調査及び収穫量調査は、北海道を対象に実施した。

(4) さとうきび

ア 収穫面積

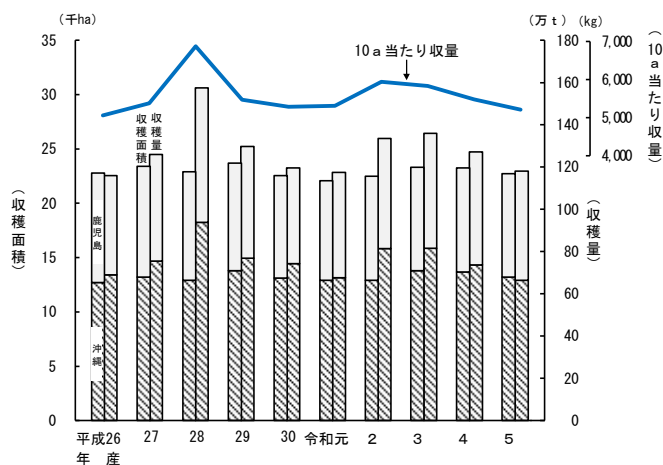
さとうきびの収穫面積は2万2,700haで、前年産に比べ500ha（2％）減少した（表6－5、図6－4）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は5,210kgで、前年産を5％下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は93％となった（表6－5、図6－4）。

図6－4 さとうきびの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移



ウ 収穫量

収穫量は118万2,000tで、前年産に比べ9万t（7％）減少した（表6－5、図6－4）。

表6－5 令和5年産さとうきびの栽培面積、作型別収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	栽 培 面 積	収 穫 面 積				10 a 当 た り 収 量			
		計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し
	ha	ha	ha	ha	ha	kg	kg	kg	kg
全 国	27,400	22,700	3,780	2,870	16,000	5,210	6,670	5,020	4,910
鹿 児 島	10,700	9,510	1,000	1,580	6,920	5,440	7,200	5,320	5,220
沖 縄	16,700	13,200	2,780	1,290	9,100	5,030	6,480	4,650	4,660

区 分	収 穫 量				前 年 産 と の 比 較				(参 考)	
	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	計	夏 植 え	春 植 え	株 出 し	10a当たり 平均収量 対 比	10a当たり 平均収量
	t	t	t	t	%	%	%	%	%	kg
全 国	1,182,000	252,100	144,100	785,500	98	98	95	93	93	5,610
鹿 児 島	517,300	72,000	84,100	361,200	98	99	97	97	99	5,500
沖 縄	664,400	180,100	60,000	424,300	98	96	93	90	87	5,770

注：さとうきびの収穫面積調査及び収穫量調査は、鹿児島県及び沖縄県を対象に実施した。

(5) こんにゃくいも

ア 栽培面積・収穫面積

こんにゃくいもの栽培面積は3,230haで、前年産に比べ90ha（3％）減少した。

また、収穫面積は1,950haで、前年産に比べ20ha（1％）減少した（表6－6、図6－5）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は2,610kgで、前年産を1％下回った。

なお、10a当たり平均収量対比は98％となった（表6－6、図6－5）。

ウ 収穫量

収穫量は5万900tで、前年産に比べ1,000t（2％）減少した（表6－6、図6－5）。

図6－5 こんにゃくいもの収穫面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

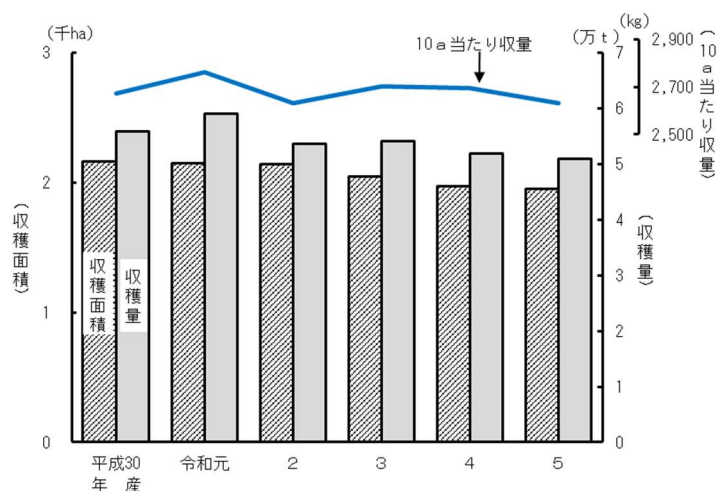


表6－6 令和5年産こんにゃくいもの栽培・収穫面積、10a当たり収量及び収穫量

区分	栽培面積	収穫面積	10a 当たり 収量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較								(参 考)	
					栽 培 面 積		収 穫 面 積		10a 当 たり 収 量		収 穫 量		10a 当 たり 平均収量 対 比	10a 当 たり 平均収量
					対 差	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比	対 差	対 比		
全 国	ha	ha	kg	t									%	kg
	3,230	1,950	2,610	50,900	△ 90	97	△ 20	99	99	99	△ 1,000	98	98	2,650
う ち 群 馬	2,990	1,810	2,680	48,500	△ 50	98	0	100	99	99	△ 700	99	95	2,810

注： こんにゃくいもの作付面積調査及び収穫量調査は主産県調査であり、作付面積調査は3年周期、収穫量調査は6年周期で全国調査を実施している。令和5年産調査については、主産県（群馬県）を対象に調査を実施した。なお、全国値は、主産県の調査結果から推計したものである。

(6) い（熊本県）

ア 作付面積

「い」の作付面積は351haで、前年産に比べ29ha（8％）減少した。

これは、高齢化による労力不足に伴う作付中止や他作物への転換等があったためである（表6－7、図6－6）。

イ 10a当たり収量

10a当たり収量は1,550kgで、前年産を1％上回った。

なお、10a当たり平均収量対比は106％となった（表6－7、図6－6）。

ウ 収穫量

収穫量は5,440tで、前年産に比べ370t（6％）減少した（表6－7、図6－6）。

エ い生産農家数、畳表生産農家数及び畳表生産量

「い」の生産農家数は296戸で、前年産に比べ23戸（7％）減少した。

このうち、畳表の生産まで一貫して行っている畳表生産農家数は294戸で、前年に比べ23戸（7％）減少した。

なお、令和4年7月から令和5年6月までの畳表生産量は154万枚で、前年に比べ11万枚（7％）減少した（表6－7）。

図6－6 「い」の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（熊本県）

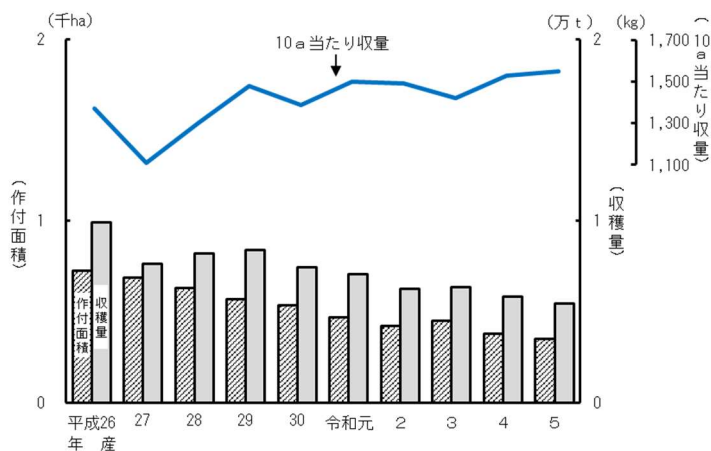


表6－7 令和5年産「い」の作付面積、10a当たり収量、収穫量等（熊本県）

区 分	い 生 産 農 家 数	作付面積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較						(参 考)		畳表生産 農 家 数	畳 表 生 産 量
					作 付 面 積		10 a 当 たり 収 量	収 穫 量		10 a 当 たり 平均収量 対 比	10 a 当 たり 平均収量			
					対 差	対 比	対 比	対 差	対 比					
	戸	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	戸	千枚	
熊 本	296	351	1,550	5,440	△ 29	92	101	△ 370	94	106	1,460	294	1,540	

注：1 「い」の調査は、熊本県を対象に実施した。

2 い生産農家数は、令和5年産の「い」の生産を行った農家の数である。

3 畳表生産農家数は、「い」の生産から畳表の生産まで一貫して行っている農家で、令和4年7月から令和5年6月までに畳表の生産を行った農家の数である。

4 畳表生産量は、畳表生産農家によって令和4年7月から令和5年6月までに生産されたものである。